〇基本計画の名称：高崎市中心市街地活性化基本計画（第３期）
〇策定主体：群馬県高崎市
〇計画期間：令和２年４月から令和７年３月まで（５年）

１．中心市街地の活性化に関する基本的な方針

［１］高崎市の概況

（１）高崎市の位置、地勢・気候

高崎市は、関東平野の北端、群馬県の中西部に位置し、県庁所在都市・前橋市に隣接する人口約 37.3 万人の中核市です。平成の大合併で誕生した現在の市域面積は約 460 ㎢に及んでいます。

南東部は関東平野の一部を形成する平坦な地形である一方、北西部は緩やかな丘陵地形や自然豊かな山々に囲まれた山間地形を有しています。内陸に位置する高崎市の気候は、都市部では太平洋沿岸気候で降水量は少ないのに対し、南海上からの暖湿流の影響を受けやすい北西部地域では降水量が多くなっています。

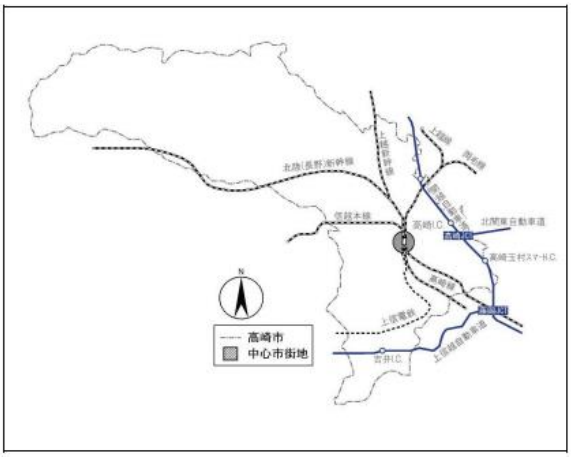
■高崎市位置図

（２）高崎市全体及び中心市街地の沿革

本市は、1598（慶長３）年、現在の高松町に高崎城が築かれ、城下町として、また、生糸などの交易が活発な商都として発展してきました。

近代に入ってからは、鉄道や道路の結節点として商業都市の性格が強まり、1960 年代に入ると中心市街地に百貨店が立地するなど、商業集積が進みました。こうしたなか、中心市街地は、田町から鞘町、連雀町へと拡大していき、複数の町で一大商業地を集積しました。

■中心市街地の位置



本市の歴史や伝統の下に形成された中心市街地の人口は、昭和 30 年の時点で市全体の約 1/3 を占め、大きな賑わいを見せました。昭和 57 年に上越新幹線、平成９年に北陸新幹線（高崎・長野間）が開通し、高崎駅周辺の土地区画整理事業や市街地再開発事業などが進捗したことで、現在では、八島町を中心とした高崎駅西口周辺に商業の中心が移ってきています。

【城下町の名残】

高崎の都市としての起源は、1598 年（慶長 3 年）、徳川四天王の一人、井伊直政が、中山道の整備によって交通の要衝となった和田の地に、箕輪から城を移し、地名を高崎と改めたことに始まります。城下町としての伝統をもつ中心市街地には、高崎城や高崎藩にまつわる文化財として、乾櫓、東門、土塁やお濠をはじめ、高崎公園のはくもくれん、大信寺の徳川忠信の墓などがあります。

高崎城址（乾櫓）

また、当時の商人、職人たちが住んでいた連雀町、鍛冶町、鞘町、檜物町といった町名が現存し、数が少ないながらも江戸時代から営まれている商家の蔵なども残り、町割りや通りも存在するなど、往時の様子を偲ぶことができます。

【音楽のある街】

1945（昭和 20）年、戦後の荒廃期に、日本の地方管弦楽団の草分け的な存在である高崎市民オーケストラが創設されました。現在では、群馬交響楽団として、国内に留まらず、海外の音楽祭からも招待を受けるなど、活動の範囲を広げています。1961（昭和 36）年には、音楽に対する市民の気運の高さを背景に、世界的な建築家、アントニン・レーモンド氏が設計した群馬音楽センターが完成し、長年にわたり多くの市民から愛着をもって親しまれてきました。さらに、2019 年（令和元年）には、高崎駅東口に上信越と北関東を代表する音楽と舞台芸術の殿堂として高崎芸術劇場が開館し、新たな鑑賞と創造の場が生まれています。このほか、高崎音楽祭や高崎マーチングフェスティバルなど、音楽に関連したイベントが数多く開催されています。また、シンフォニーホールやタゴスタジオなどレッスンやレコーディング等ができる音楽環境も整っています。全国的に有名なロックバンドを輩出したことや、クラシック、ロック、邦楽など、幅広いジャンルのイベントが盛んであることから、本市は、老若男女を問わず「音楽のある街」として認知されています。

群馬音楽センター

群馬交響楽団

【賑わいのあるイベントや文化活動】

本市では、市民が参加し楽しむことを目的とした「高崎まつり」や「高崎えびす講市」、高崎ならではの視点で選定した映画の祭典「高崎映画祭」など、多くのまつりやイベントが開催されており、これらは本市独自の個性的な芸術を創り上げています。

高崎まつり

また、中心市街地には、気軽に芸術に触れることのできる施設が多数あります。美術館では、高崎市にゆかりのある作家のコレクションに親しむことができ、タワー美術館では、近現代の日本画の作品を中心に鑑賞できます。さらに、市民の創作意欲の向上に資する発表の場として高崎シティギャラリーがあり、日常的に芸術と触れ合える環境が整っています。

【新たなスポーツの拠点】

本市では、高崎駅東口の中央体育館の老朽化に伴い、新たに 2017（平成 29）年に国際級の規模を誇る体育館「高崎アリーナ」が駅西口に開館しました。市民のスポーツ利用だけでなく、体操、新体操をはじめ様々なスポーツ競技の国際大会、全国大会等が開催され、それらの大会を観戦するために、市内外から多くの人が訪れ、本市の新たなスポーツの拠点となっており、まちの賑わいの創出にも大きく貢献しています。

高崎アリーナ

【都市ブランド】

本市には、全国的に有名な「高崎だるま」があります。1993（平成 5）年に群馬県ふるさと伝統工芸品に指定され、2006（平成 18）年に特許庁が創設した地域団体商標制度で県内初となる商標登録を受けています。毎年 1 月には「高崎だるま市」が開催され、市内外から福を求めて訪れる多くの人で賑わいます。

高崎だるま

また、高崎は小麦の産地でもあることから、「高崎うどん」や「パスタ」は多くの市民に親しまれています。中心市街地にも多くの店舗が立地しており、高崎の粉文化を牽引しています。

【社会資本と産業資源】

本市の中心市街地には、上越・北陸新幹線をはじめ、JR 在来線や上信電鉄が乗り入れる高崎駅があります。高崎駅は 2018（平成 30）年時点で、1 日約 3.2 万人の乗客があり、乗降客では約 6.5 万人が行き交う、県内随一のターミナル駅で、郊外の大学や企業へ向かう通勤通学の発着点ともなっています。駅の利便性が良いことが、学生や雇用の増加に繋がり、市全体の活力を向上させる結果になっています。駅の中には、商業や飲食など様々な施設があり、活気に満ちています。高崎駅の東西では、土地区画整理事業が進捗し、市街地再開発事業とともに都市基盤の向上に大きく貢献しました。市街地再開発事業は、全国でも高水準にあり、現在の都市の基礎をつくりました。

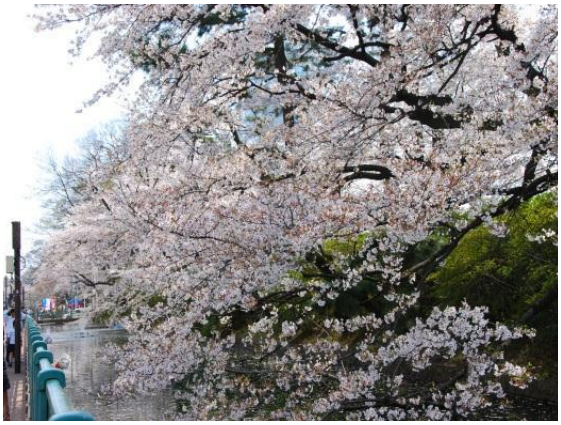
JR 高崎駅コンコース

また、高崎駅西口には、モントレーや髙島屋、スズランがあり、東口にはヤマダ電機（LABI1 高崎）が立地しています。さらに、2017（平成 29）年には高崎オーパが開業し、これらの大型商業施設と商店街を中心に形成される商業地は、北関東でもトップクラスの集積を誇っています。

さらに、中心市街地には、柳川町をはじめとする飲食の集積地が複数あり、業務系と飲食系が融和したまちとなっています。

【景観資源】

中心市街地西側に広がる城址地区には、高崎城の面影を今に伝えるお濠が現存しています。春には、このお濠の土塁に植えられている桜が見事な花を咲かせ、市民の心を和ませています。この辺りには、高崎公園や城址公園、もてなし広場などがあり、貴重な文化資産の群馬音楽センターと景観が調和しています。



城址地区の桜

また、中心市街地の北側は、蔵や商家、路地などが残っており、宿場町として栄えた足跡を感じとることができます。

一方、高崎駅の東西では、複数の大型商業ビルやホテル、業務ビルやマンションなど、中高層の建物が立ち並び、都会的風景が形成されています。このビルの合間には、アントニン・レーモンドの私邸を参考に建てられた「旧井上房一郎邸」があり、喧騒と静けさ、両面を兼ね備えた貴重な地区になっています。また、高崎駅と市役所を結ぶシンフォニーロードは、電線類が地中化されるとともに歩道が整備され、緑豊かな街路樹が季節を感じさせてくれる中心市街地の主要な景観軸となっています。

［２］地域の現状に関する統計的なデータの把握・分析

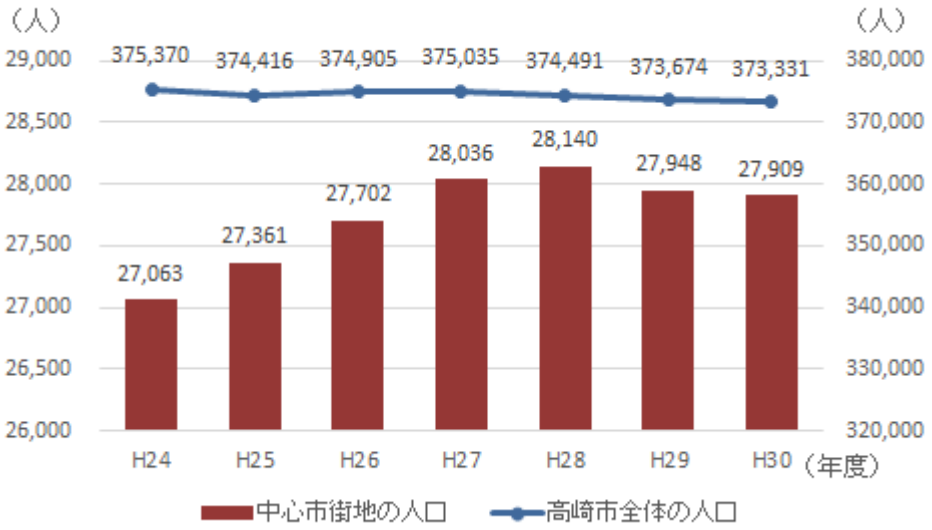
（１）人口動態に関する動向

①高崎市及び中心市街地の人口の状況

高崎市全体の人口は、平成 24 年度から平成 30 年度にかけてほぼ横ばいの状況にあります。中心市街地の人口は、平成 24 年度から平成 28 年度にかけて増加傾向にありましたが、平成 29 年度に減少に転じています。

高崎市全体に占める中心市街地の人口の割合は、平成30年度に7.5%となっており、6 年前の平成 24 年度と比較して 0.3%上昇しています。

■高崎市及び中心市街地の人口推移



（資料：住民基本台帳、各年度 3 月 31 日現在）

■人口増減の割合（平成 24 年度～平成 30 年度）

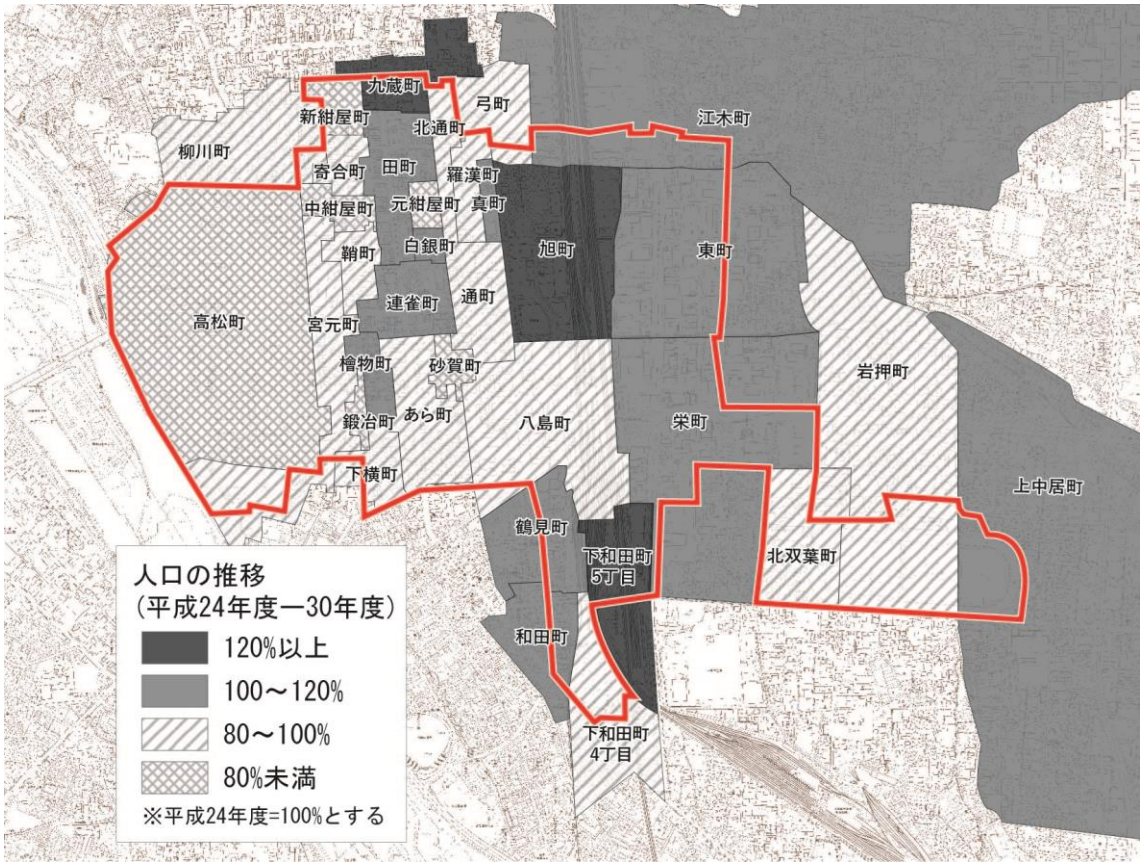
	H24 年度	H30 年度	増減
a. 市全体	375,370 人	373,331 人	▲2,039 人
b. 中心市街地	27,063 人	27,909 人	846 人
市全体に占める割合（b/a）	7.2%	7.5%	0.3%

（資料：住民基本台帳）

中心市街地の町単位で人口増減を見ると、高崎駅北側の旭町や九蔵町、東町などで増加しており、土地区画整理事業や市街地再開発事業などの都市基盤整備が進捗したことにより、マンション建設が進んだことが要因として挙げられます。

一方、人口減少が進む町は、新紺屋町、中紺屋町、元紺屋町、砂賀町、鍛冶町で、中心商店街を取り巻くように点在していることが分かります。

■中心市街地の人口増減の割合（平成 24 年度から平成 30 年度）

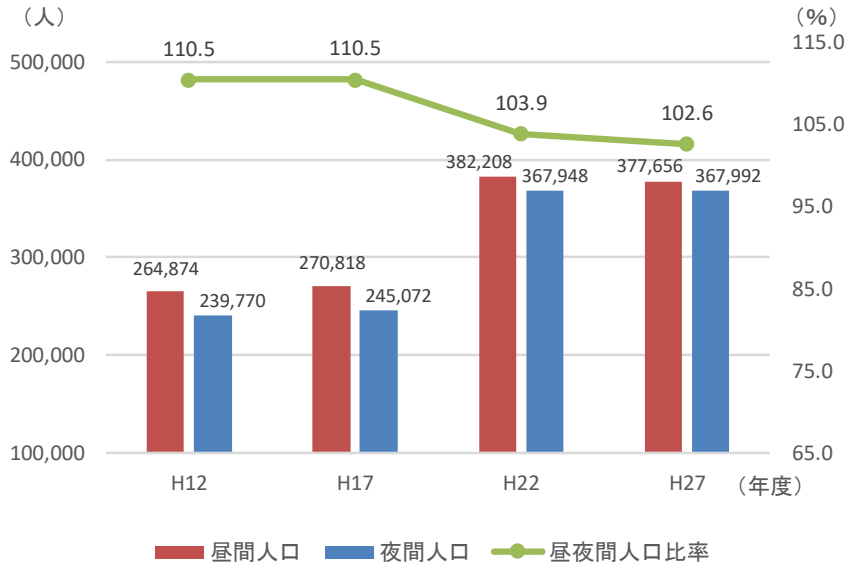


（資料：住民基本台帳）

②高崎市の昼夜間人口の状況

国勢調査に基づく高崎市の昼夜間人口の推移を見ると、最新値である平成 27 年度の昼間人口は 377,656 人、夜間人口 367,992 人であり、昼夜間人口比率が 102.6%となっています。隣接する市町村から多くの人が、高崎市内に通勤通学していることが分かります。

■高崎市の昼夜間人口の推移



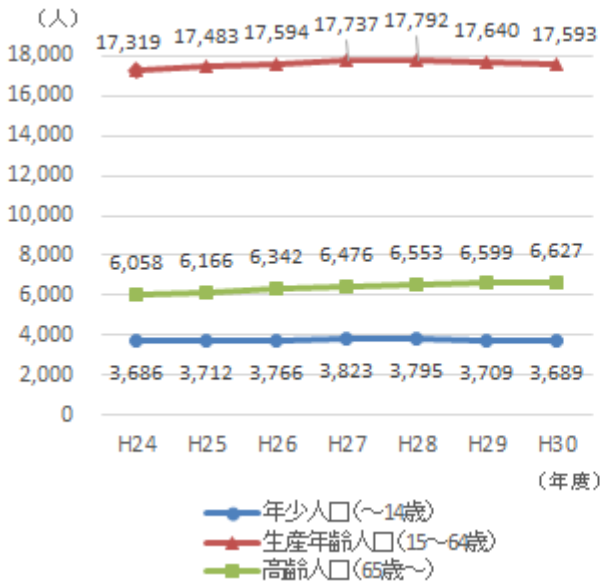
（資料：国勢調査、各年度 10 月 1 日現在）

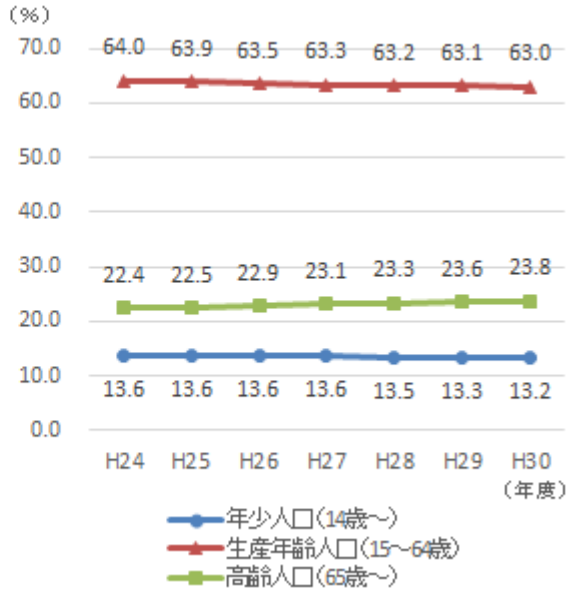
③中心市街地の年齢３区分別人口の状況

中心市街地では、高齢人口（65 歳～）が増加していくなか、年少人口（～15 歳）・生産年齢人口（15～64 歳）は停滞・微減傾向にあります。

平成 24 年度から平成 30 年度まで 7 年間の人口の推移を見ると、いずれの年齢区分においても人口が増加していますが、特に高齢人口が 569 人の増加と多くなっています。また構成割合についても、高齢人口が 1.4%の増加となっており、高齢化の進行が見て取れます。

■中心市街地の年齢３区分別人口及び構成割合の推移





（資料：住民基本台帳、各年度 3 月 31 日現在）

■中心市街地の年齢３区分別人口の比較

	H24 年度	H30 年度	増減
年少人口（～14 歳）	3,686 人	3,689 人	3 人
生産年齢人口（15～64 歳）	17,319 人	17,593 人	274 人
高齢人口（65 歳～）	6,058 人	6,627 人	569 人
合計	27,063 人	27,909 人	846 人

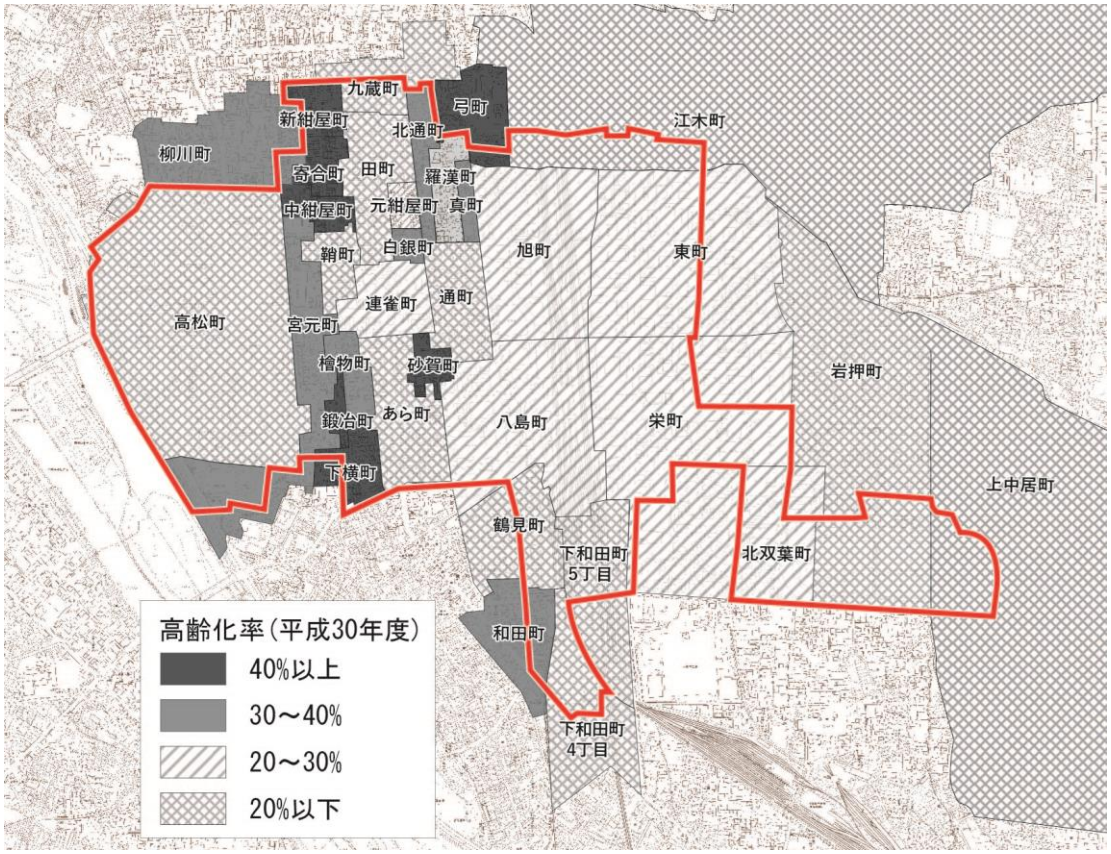
（構成割合）

	H24 年度	H30 年度	増減
年少人口（～14 歳）	13.6%	13.2%	▲0.4%
生産年齢人口（15～64 歳）	64.0%	63.0%	▲1.0%
高齢人口（65 歳～）	22.4%	23.8%	1.4%
合計	100%	100%	－

（資料：住民基本台帳）

中心市街地の町単位で高齢化率をみると、新紺屋町、寄合町、中紺屋町、弓町、砂賀町、鍛冶町、下横町において、特に高齢化率が高くなっています。

■町別高齢化率（平成 30 年度）



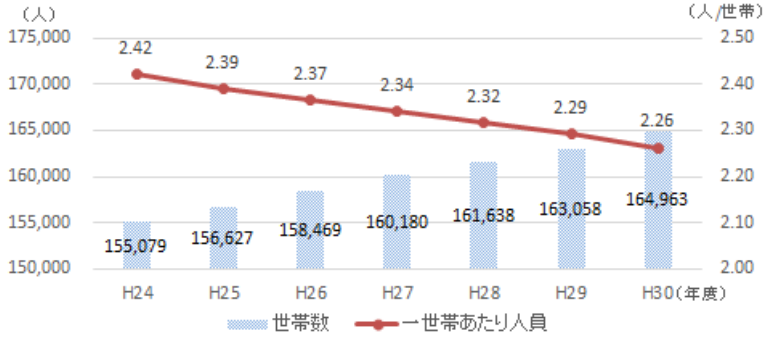
（資料：住民基本台帳）

④高崎市及び中心市街地の世帯数及び一世帯当たりの人員の状況

高崎市及び中心市街地の世帯数はともに増加傾向にあり、高崎市全体に占める中心市街地の世帯数の割合（シェア率）は、平成 30 年度では 8.2%と平成 24 年度に比べて 0.2%増加しています。

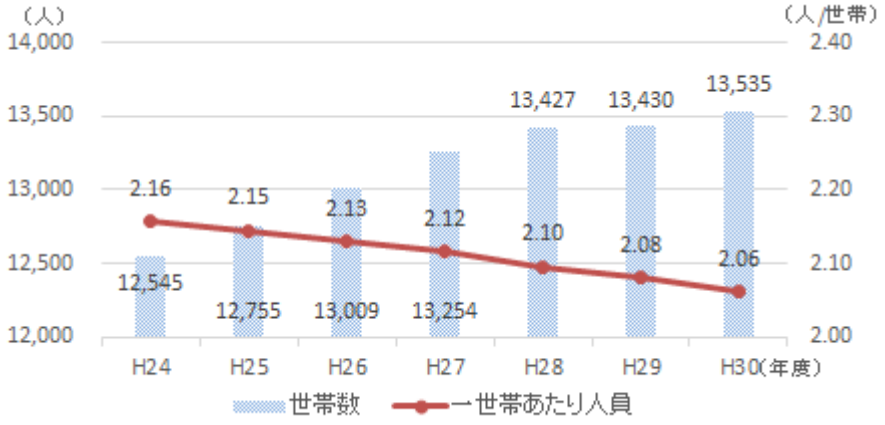
一世帯あたり人員は、高崎市、中心市街地ともに減少傾向にあります。中心市街地は高崎市全体と比較して、一世帯あたり人員が少なく、平成 30 年度には 2.06 人と 2 人世帯に近づいて行っています。

■高崎市の世帯数及び一世帯あたり人員の推移



（資料：住民基本台帳）

■中心市街地の世帯数及び一世帯あたり人員の推移



（資料：住民基本台帳）

■高崎市の世帯数及び一世帯あたり人員の推移

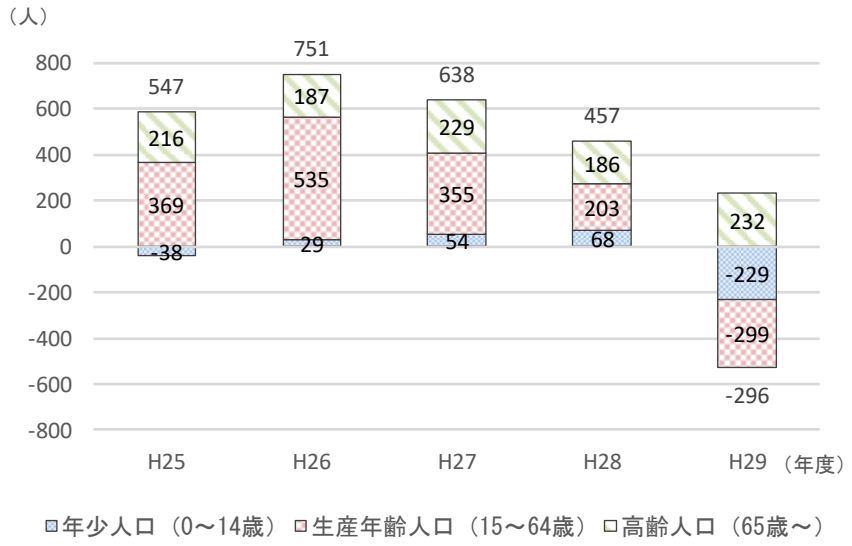
		H24 年度	H30 年度	増減
世帯数	a. 高崎市	155,079 世帯	164,963 世帯	9,884 世帯(6.4%)
	b. 中心市街地	12,545 世帯	13,535 世帯	990 世帯(7.9%)
	c. シェア率（b/a）	8.0%	8.2%	0.2%
世帯人員	d. 高崎市	2.42 人/世帯	2.26 人/世帯	▲0.16 人/世帯(▲6.6%)
	e. 中心市街地	2.16 人/世帯	2.06 人/世帯	▲0.10 人/世帯(▲4.6%)

（資料：住民基本台帳）

⑤高崎市の年齢階級別純移動数の状況

高崎市の年齢階級別純移動数（年齢別社会増減数）の推移を見ると、平成 25 年度から平成 28 年度まではほぼすべての年齢階級においても社会増にありましたが、平成 29 年度から年少人口、生産年齢人口が社会減に転じ、全体としても-296 人の社会減に転じています。

■高崎市の年齢階級別純移動数の推移



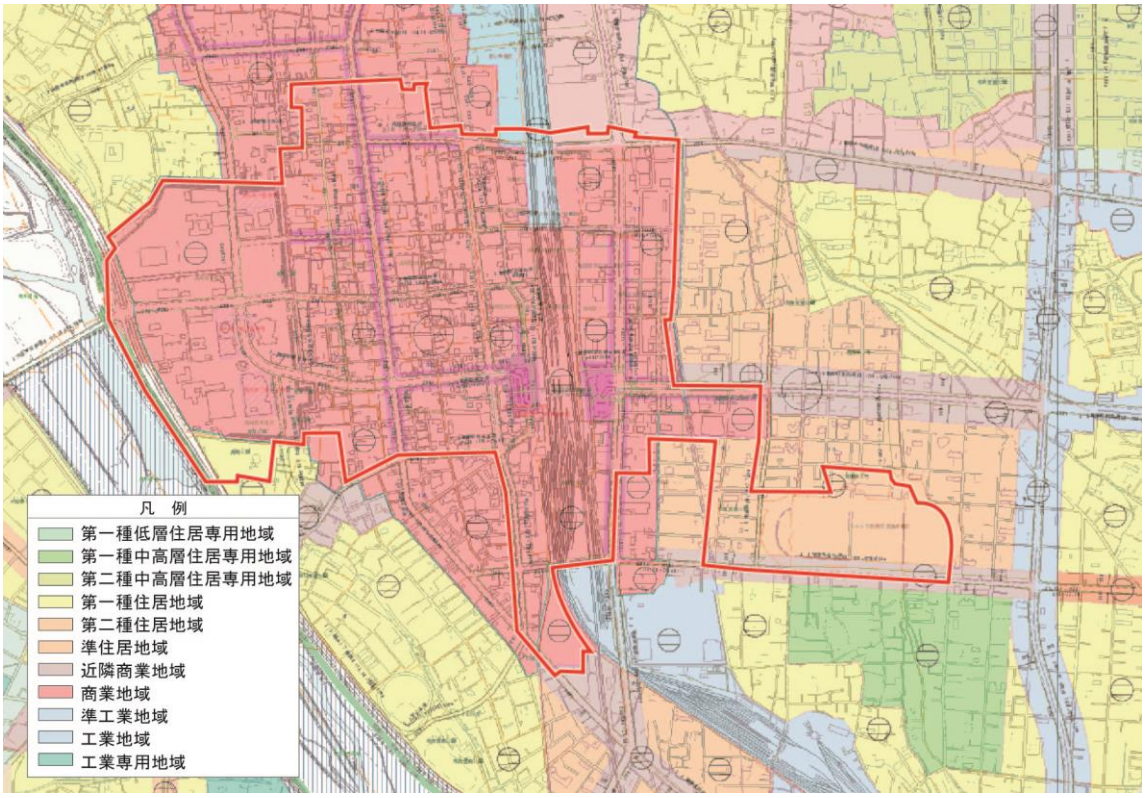
（資料：総務省「住民基本台帳移動報告」地域経済分析システム（RESAS））

（２）土地利用、公共公益施設に関する状況

①都市構造の状況

中心市街地では、高崎駅を中心に商業地が形成され、それを取り囲むように住宅地が広がっています。一部の鉄道沿線地域には、工業地域も見られます。

■用途地域図



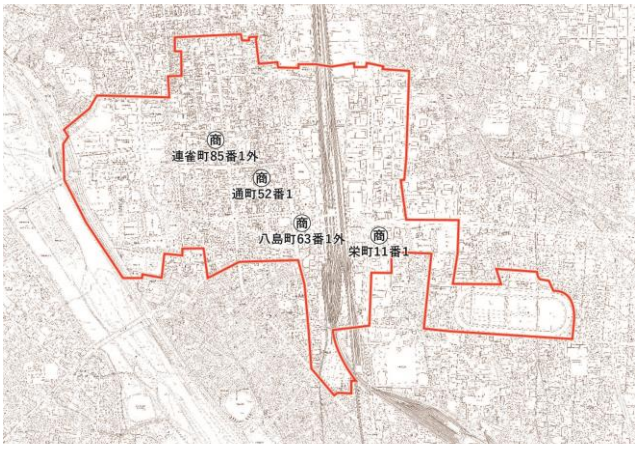
（資料：まっぷ de たかさき、令和元年 6 月現在）

②公示地価の動向

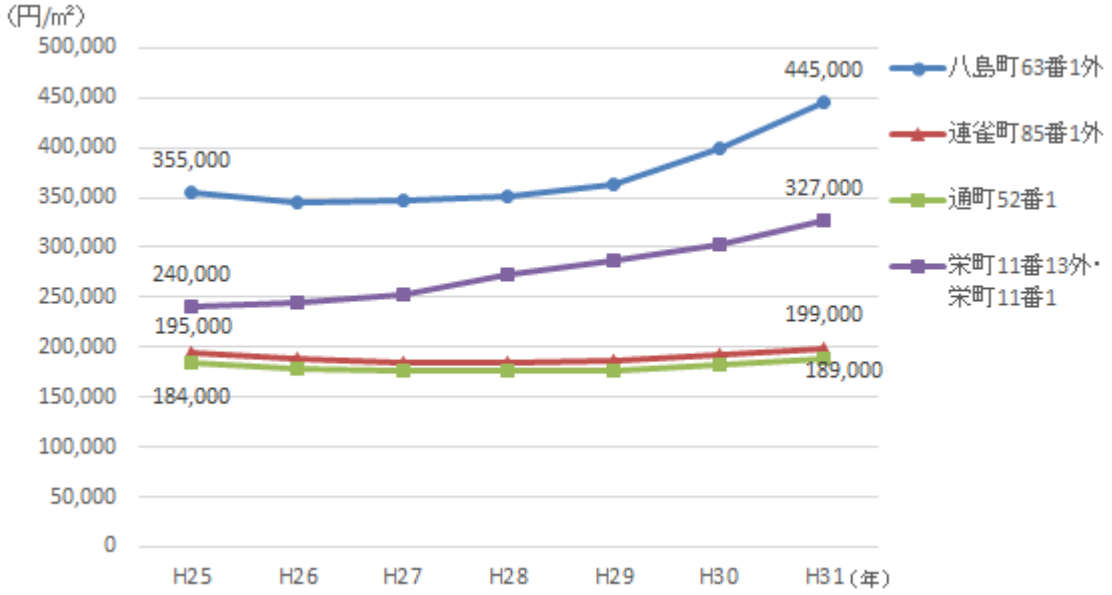
中心市街地の公示地価の動向を見ると、高崎駅周辺の商業地では大きく上昇しています。一方、中心商店街は平成 28 年から微増傾向にあります。

中心市街地の住宅地も微増傾向にあります。

■中心市街地の公示地価地点

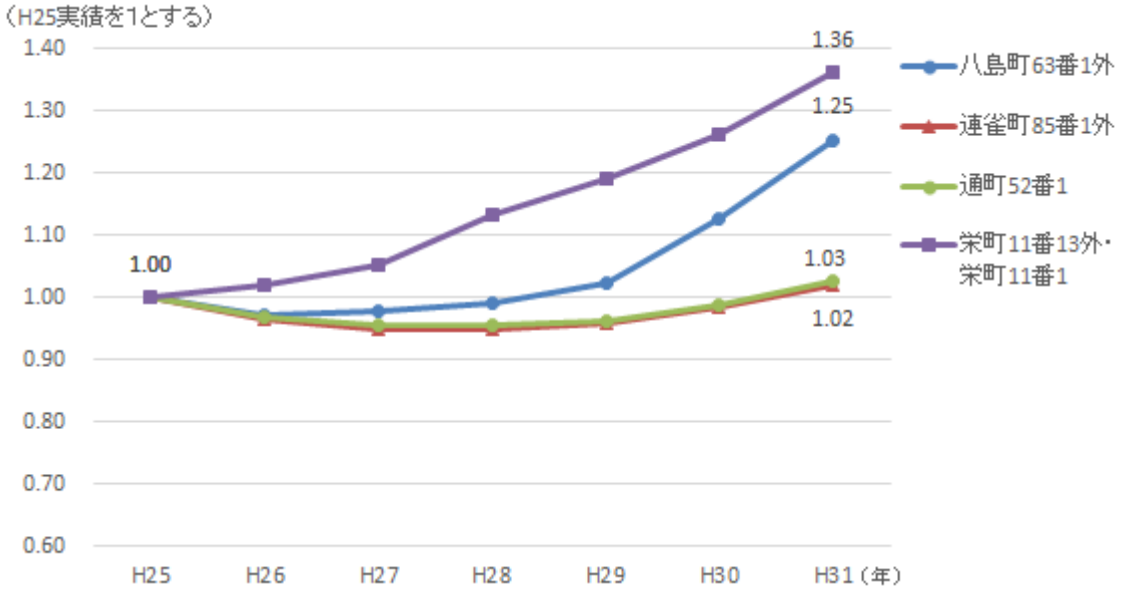


■中心市街地の公示地価の推移



（資料：国土交通省地価公示、※H27 までは栄町 11 番 13 外・以降は 11 番 1 での公示地価）

■平成 25 年を基準にした場合の公示地価の割合



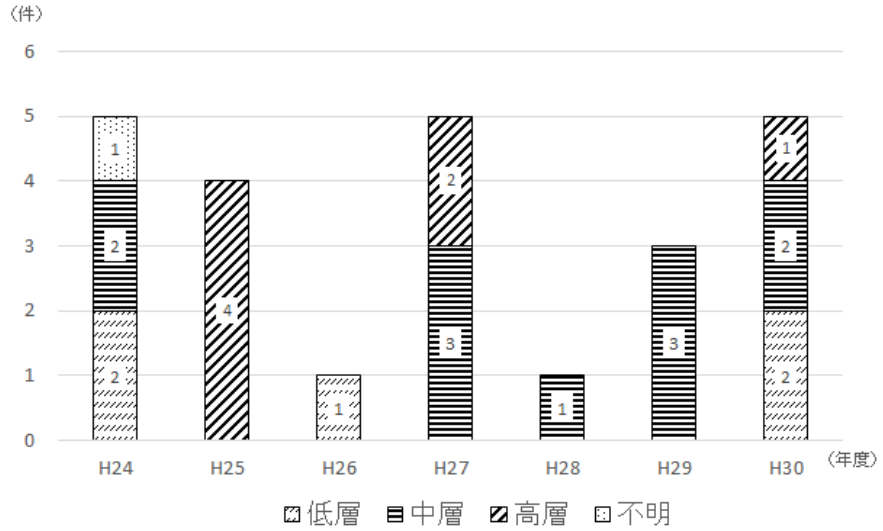
③共同住宅の建築確認申請件数の状況

中心市街地における共同住宅の供給推移を建築確認申請ベースでみると、過去 7 年間で 24 件あります。年平均 3.4 件の共同住宅が建設されています。

階数別の申請件数を見ると、中層及び高層の共同住宅の割合が高くなっています。

■共同住宅の申請確認件数の推移

（低層：2 階建て以下、中層：3 階～5 階建て、高層：6 階建て以上）



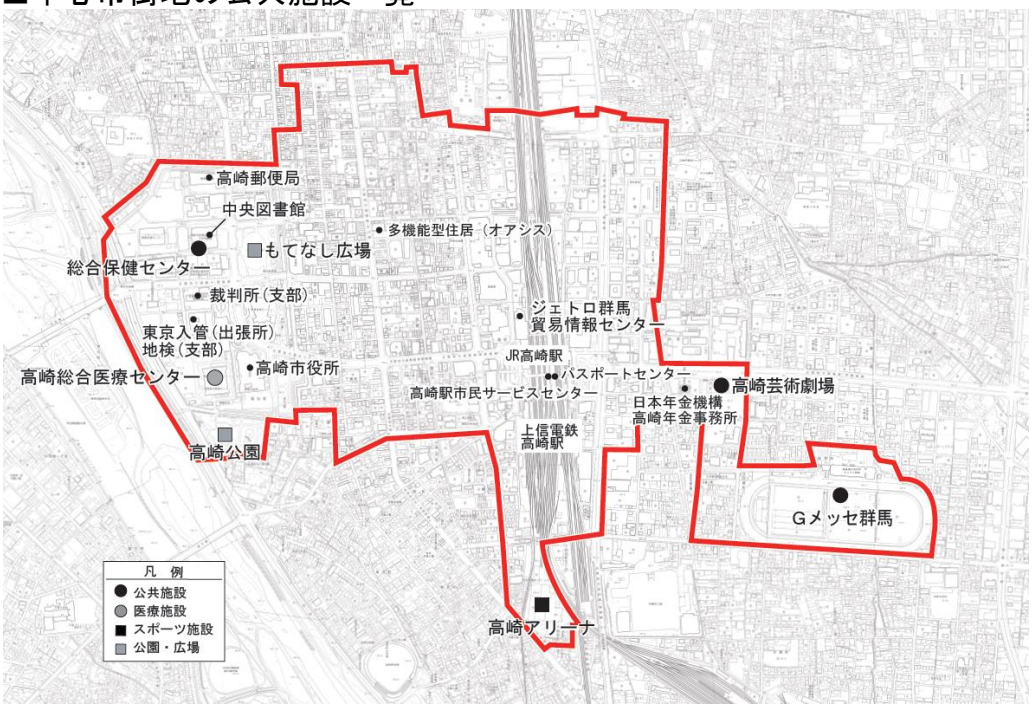
（資料：高崎市：建築確認申請）

④公共関連施設の状況

中心市街地における主な公共関連施設は、高松町を中心に立地しており、市役所、総合保健センター、中央図書館や、群馬音楽センターなど、さまざまな行政・文化機能が集積しています。

高崎駅東側には高崎芸術劇場、Ｇメッセ群馬、南側には高崎アリーナが立地しています。

■中心市街地の公共施設一覧

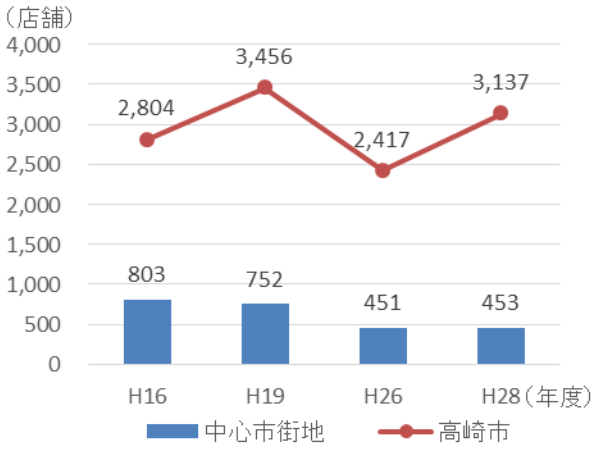


（３）商業・賑わいに関する状況

①小売業の店舗数の状況

小売業の店舗数の推移を見ると、高崎市全体、中心市街地ともに、平成 19 年度から平成26年度にかけて減少しましたが、その後回復傾向にあります。

■小売業の店舗数の推移

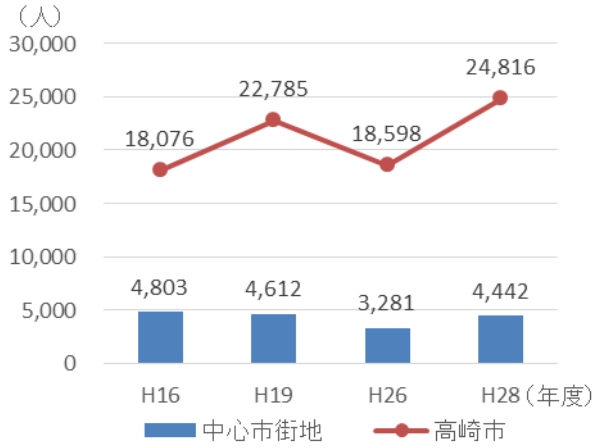


（資料：経済センサス、商業統計調査）

②小売業の従業者数の状況

小売業の従業者の推移を見ると、店舗数の推移と同様に、高崎市全体、中心市街地ともに平成 19 年度から平成 26 年度に減少しましたが、平成 26 年度から平成 28 年度にかけては増加に転じています。

■小売業の従業者数の推移



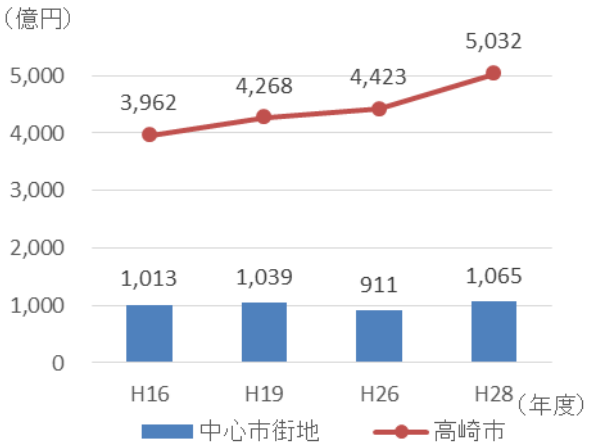
（資料：経済センサス、商業統計調査）

③小売業年間商品販売額の状況

小売業年間商品販売額の推移を見ると、中心市街地は平成26年度に減少したものの、その後増加に転じています。

高崎市全体は増加傾向にあります。

■小売業年間商品販売額の推移

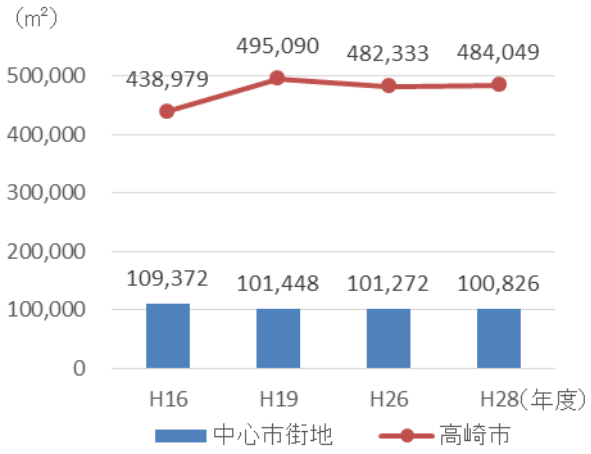


（資料：経済センサス、商業統計調査）

④小売業の店舗の売場面積の状況

小売業の店舗の売場面積の推移を見ると、高崎市全体の面積は高止まり傾向にあります。中心市街地は微減傾向にあります。

■小売売り場面積の推移

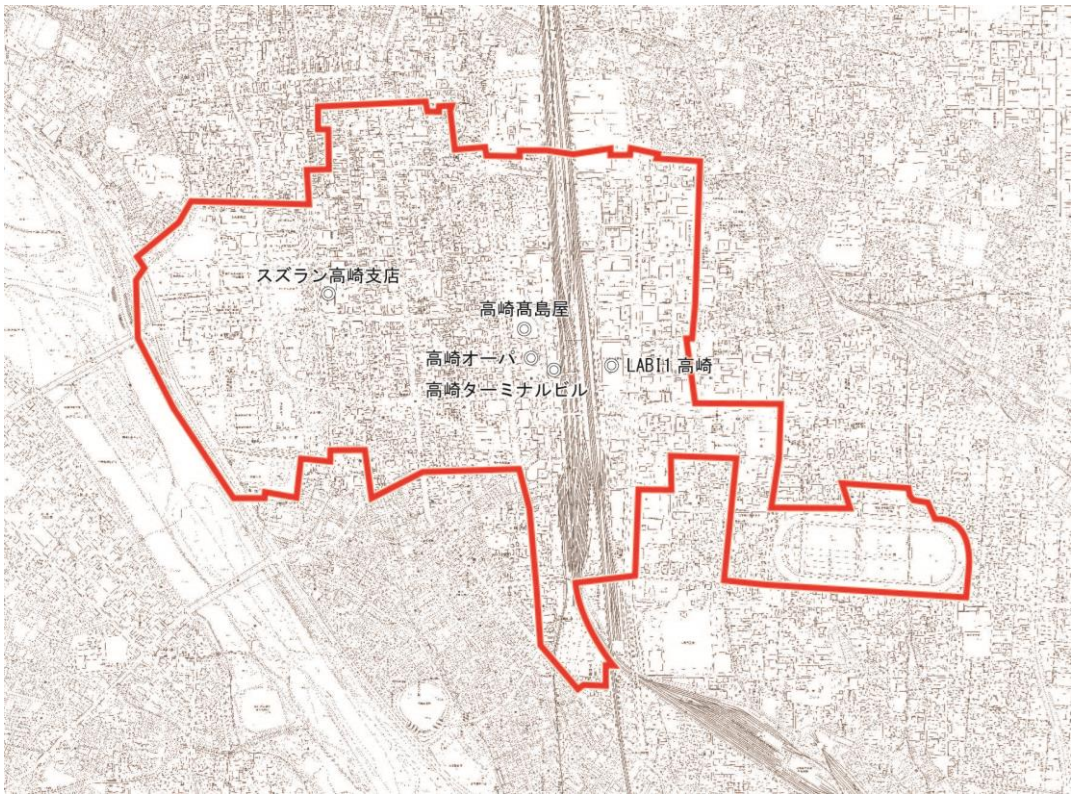


（資料：経済センサス、商業統計調査）

⑤大規模小売店舗の状況

高崎市には店舗面積が 5,000 ㎡以上の大規模小売店舗が 19 店舗あり、そのうち 5 店舗が中心市街地に立地しています。

■中心市街地における大規模小売店舗位置図



■5,000 ㎡以上の大規模小売店舗の一覧

No.	店舗名	所在地	開店年月	店舗面積（㎡）	主な小売業者
1	スズラン高崎支店	宮元町	S43.11	20,233	スズラン
2	ホームマートセキチュー高崎店	飯塚町	S51.11	5,326	セキチュー
3	高崎髙島屋	旭町	S52.10	17,349	高崎髙島屋
4	ベイシア吉井店	吉井町	S56. 6	5,814	ベイシア
5	高崎ターミナルビル	八島町	S57. 4	9,578	ニュー・クイック
6	第２ウエノハラビル	飯塚町	H 6. 5	5,483	ニトリ
7	高崎ショッピング広場ビル	中尾町	H 7. 4	11,411	カルチャー
8	ハイパーモールメルクス倉賀野	倉賀野	H 8. 3	13,248	ミスターマックス
9	アピタ高崎店	矢中町	H 8. 4	11,662	ユニー
10	はるなショッピングタウン	中里見町	H 8. 7	9,777	コメリ
11	セキチュー高崎矢中店	矢中町	H14. 4	6,946	セキチュー
12	カワチ薬品大八木店	大八木町	H18. 2	17,070	ＬＩＸＩＬビバ
13	イオンモール高崎	棟高町	H18.10	44,370	イオンリテール
14	フェドラＰ＆Ｄ　ＴＡＫＡＳＡＫＩ	緑町	H19. 7	5,500	ヒマラヤ
15	ＡＣＴビル	江木町	H20. 4	8,776	ビー・リング
16	ＬＡＢＩ１高崎	栄町	H20. 7	20,821	ヤマダ電機
17	ＵＮＩＣＵＳ高崎	飯塚町	H20.11	6,550	ヤオコー
18	高崎オーパ	八島町	H29.10	約 26,000	東急ハンズ
19	ニトリ高崎倉賀野店	倉賀野町	R 1. 9	7,383	ニトリ

（資料：群馬県大規模小売店舗名簿（令和元年６月）、群馬県産業経済部商政課）

※網掛けは中心市街地に立地する店舗。

※高崎オーパは、自治体への新設の届出が不要な「第一種大規模小売店舗立地法特例区域」に立地し、上記名簿には掲載されていないため、直接当該店舗に確認した数字を掲載することとする。

⑥商店街の状況

中心市街地には、24 の商店街が形成されており、加入商店数は 526 店となっています。商店街で行うイベントも数多くあり、活力と賑わいの向上に取り組んでいます。

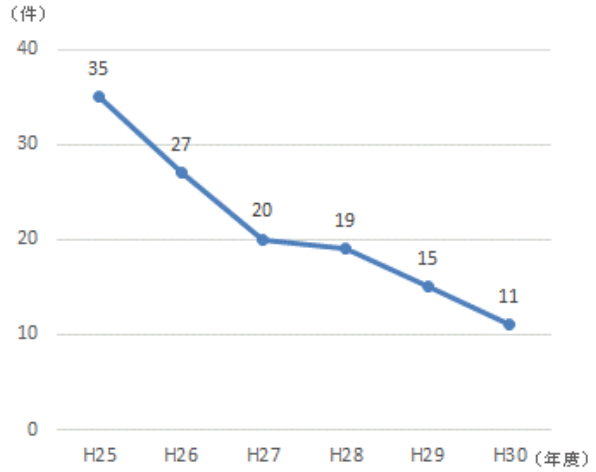
商店街の空き店舗数も平成 25 年度に比較して、平成 30 年度には半数以下に減少しています。

■中心市街地の商店街一覧

番号	商店街名	商店数	番号	商店街名	商店数
①	高崎駅前通り商店街振興組合	20	⑭	東一条通り商店会	16
②	高崎あら町南大通り商店街組合	27	⑮	高崎五番街	16
③	あら町繁栄会	7	⑯	高崎中央銀座商店街組合	29
④	西口中央名店街もみじ会	34	⑰	高崎銀座みゆき通り商店街組合	12
⑤	高崎レンガ通り商店街組合	30	⑱	えびす通り商店街	19
⑥	team hana hana street	35	⑲	高崎田町一丁目アーケード会	3
⑦	西口一番街商店会	32	⑳	田町繁栄会	19
⑧	下横町商工振興会	19	㉑	高崎本町商店会	32
⑨	高崎南銀座商店街振興会	33	㉒	九蔵町・本町三丁目名店街	13
⑩	商店街振興組合高崎中部名店街	60	㉓	田町三丁目共栄会	11
⑪⑫	大手前慈光通り商店街組合	24	㉔	高崎八間道路商店会	22
⑬	高崎大通り商店街組合	13		合計	526

■商店街位置図

■商店街空き店舗数の推移



（資料：高崎市商工振興課）

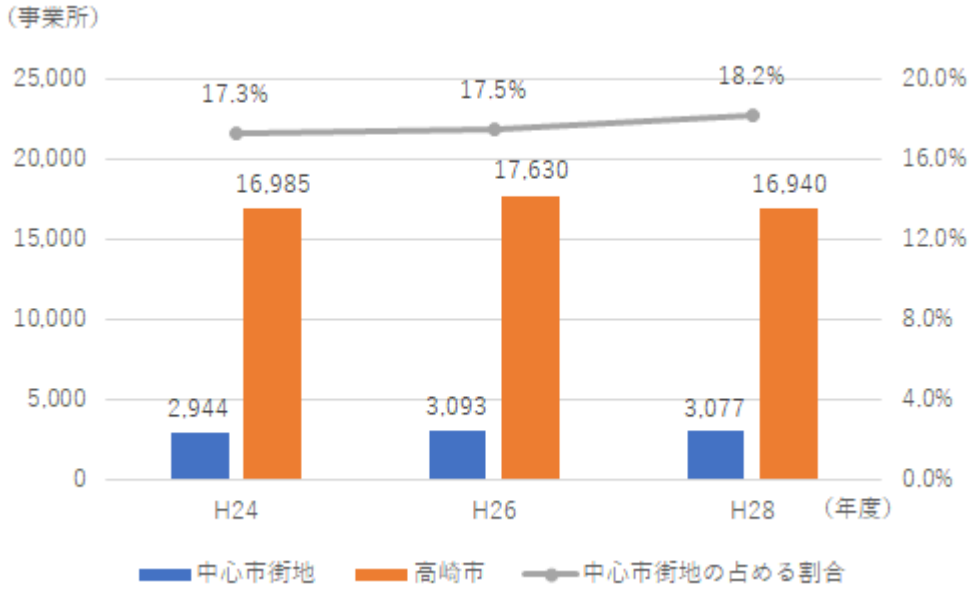
⑦事業所・従業員数の状況

高崎市における中心市街地の事業所数及びその占める割合は、平成 24 年度に 2,944 事業所、17.3%が、平成 28 年度には 3,077 事業所、18.2%となっています。

同様に従業員数の状況を見ると、平成 24 年度に 34,445 人、20.6%が、平成 28 年度には 39,213 人、22.5%となっています。

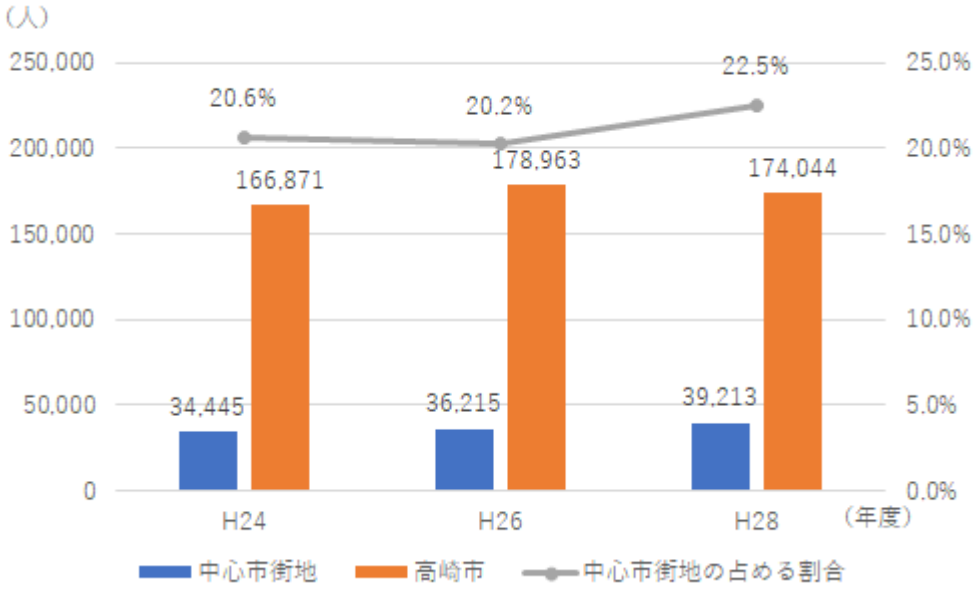
中心市街地には市の約 2 割前後の事業所、従業員が集積しています。

■事業所数の推移



（資料：経済センサス）

■従業員数の推移



（資料：経済センサス）

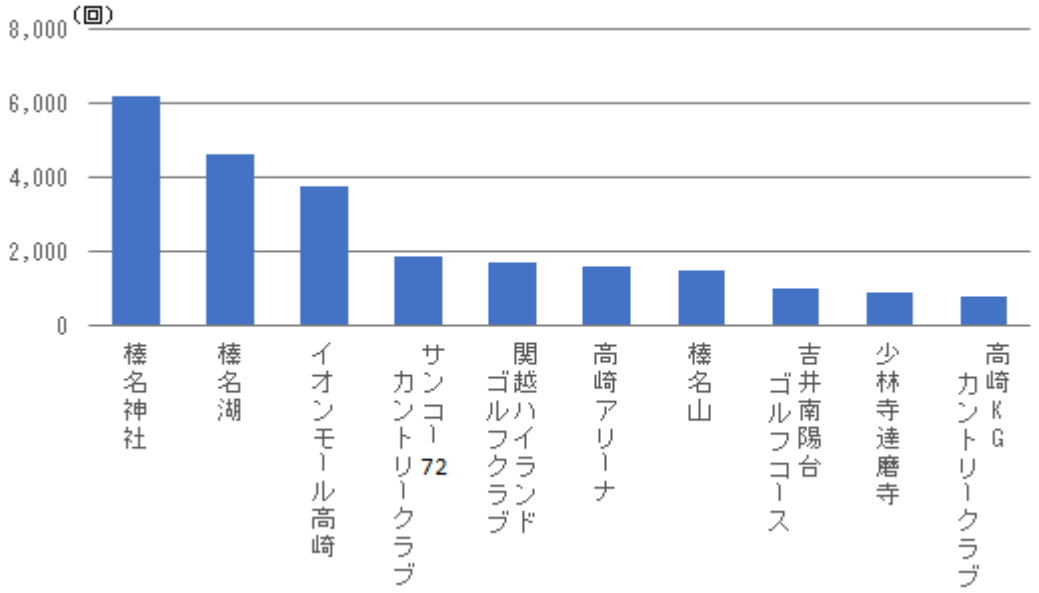
⑧来訪者の目的地分析

高崎市の目的地検索ランキングにおいて、自動車利用と公共交通利用との検索回数を比較すると、自動車利用での検索回数が圧倒的に多く、市内の移動には自動車が使われることが多いと予測されます。

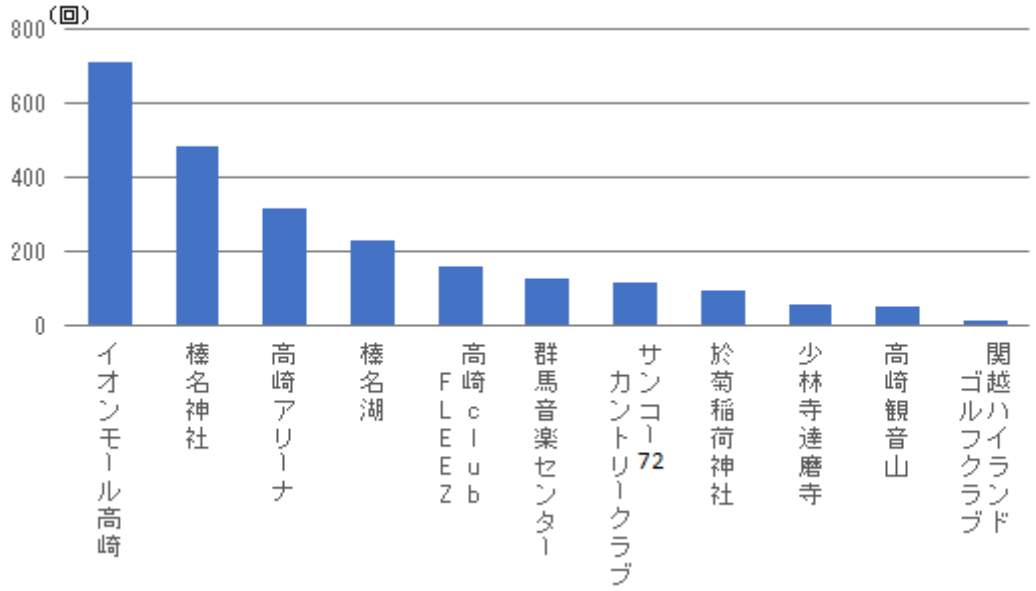
目的地としては、自動車利用においては榛名神社、榛名湖、榛名山など、榛名地域のレジャースポットが上位にランクインしています。一方、公共交通利用においては、高崎市で最も大きい商業施設であるイオンモール高崎が１位となっているほか、高崎アリーナや群馬音楽センターなどの公共施設が上位にランクインしているという特徴があります。

■高崎市の目的地一覧（平成 30 年・平日、交通手段：上：自動車、下：公共交通）

＜交通手段：自動車＞



＜交通手段：公共交通＞



（資料：地域経済分析システム RESAS（株式会社ナビタイムジャパン「経路検索条件データ」））

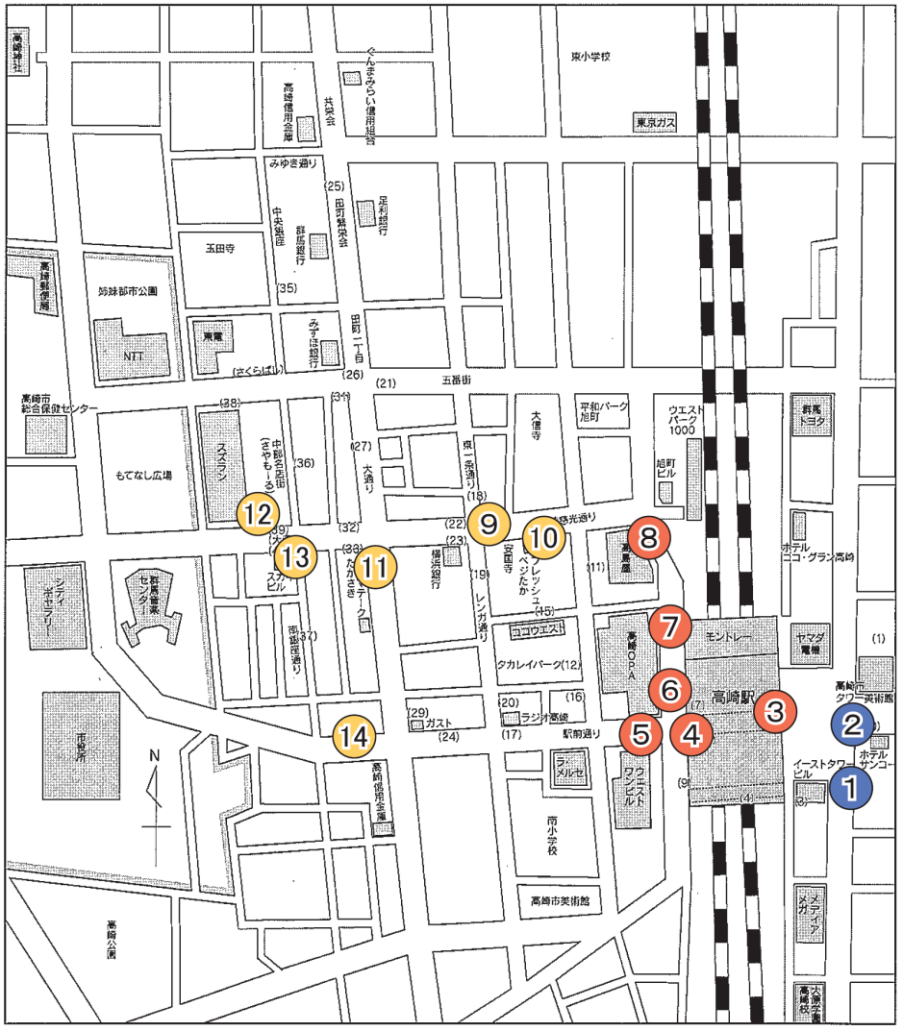
⑨歩行者・自転車通行量の推移

中心市街地全体の歩行者・自転車通行量は回復傾向にあり、この５年間に約 1.5 倍に増加しています。

ゾーン別の推移を見ると、高崎駅周辺ゾーンで賑わいの回復が見られる反面、中心商店街ゾーンでは、歩行者・自転車通行量が伸び悩んでいます。

今後、高崎駅東口エリアに高崎芸術劇場等の都市集客施設の整備がさらに進むことにより、歩行者・自転車通行量の増加が見込まれます。市内外からの来訪者が中心市街地を回遊するなど、高崎駅周辺ゾーン及び高崎駅東側ゾーンの活性化効果を中心商店街に波及させることが求められます。

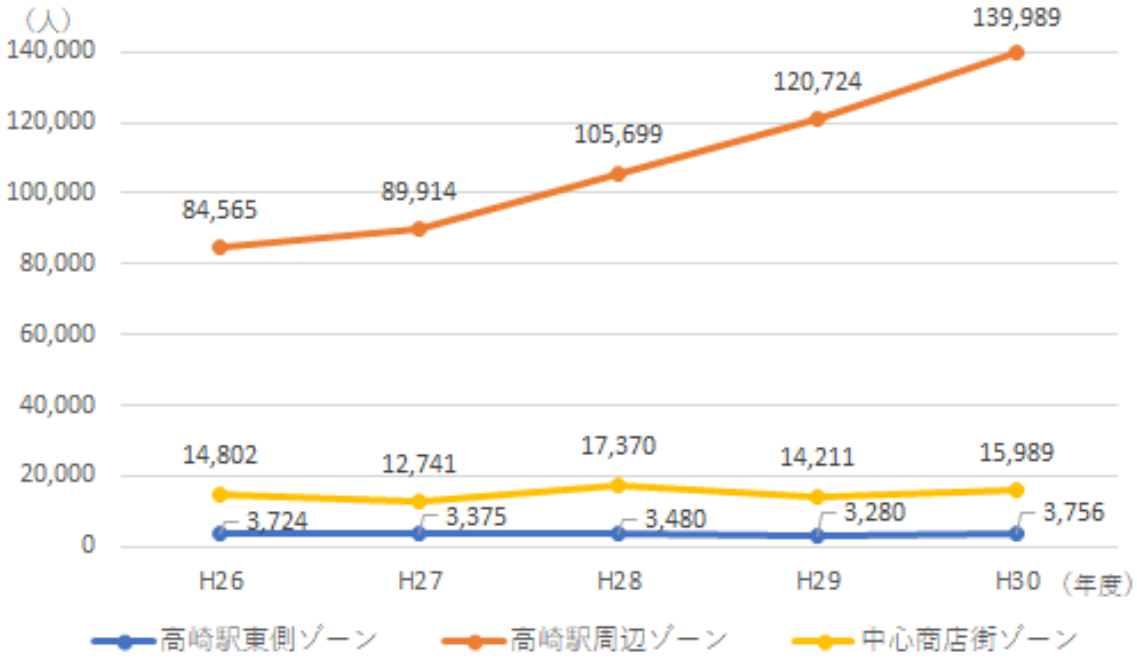
■歩行者・自転車通行量調査（休日）における調査地点



エリア	地点
高崎駅東側ゾーン	①イーストタワー東側　②ホテルサンコー前
高崎駅周辺ゾーン	③駅東側コンコース　④駅西側コンコース　⑤ファミリーマート駅西口前 ⑥日本通運跡地前（現オーパ前）⑦駅ビル北側入り口前　⑧髙島屋東入り口前
中心商店街ゾーン	⑨プラザホテル南側前　⑩安国寺入り口前　⑪チサ前　⑫乾小児科内科医院前 ⑬Ｈ．Ｉ．Ｓ前　⑭高崎シンフォニーＰ前

■歩行者・自転車通行量の推移　　（単位：人）

エリア	H26	H27	H28	H29	H30	H30 年/H26 年
高崎駅東側ゾーン	3, 724	3, 375	3, 480	3, 280	3, 756	100. 9%
高崎駅周辺ゾーン	84, 565	89, 914	105, 699	120, 724	139, 989	165. 5%
中心商店街ゾーン	14, 802	12, 741	17, 370	14, 211	15, 989	108. 0%
合計	103, 091	106, 030	126, 549	138, 215	159, 734	154. 9%



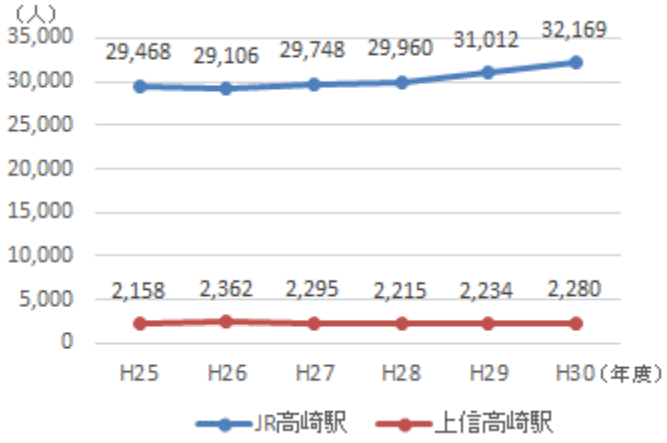
（４）公共交通等に関する状況

①鉄道

高崎市は首都圏と上信越を結ぶ交通の要衝として、上越、北陸新幹線の2路線が通っているほか、JR高崎線、上越線、両毛線、信越本線、八高線が走っています。また、県西部の人々の貴重な移動手段として上信電鉄が乗り入れているなど、全国でも有数の交通拠点性を有しています。

JR高崎駅の1日平均乗客数は、県内各駅の中で最も多く、平成30年度で32,169人となっており、ここ数年は微増しています。一方、上信高崎駅の1日平均乗客数は平成30年度で2,280人と横ばい傾向です。

■JR高崎駅、上信高崎駅の一日当たり乗車人数



（資料：JR東日本・上信電鉄㈱）

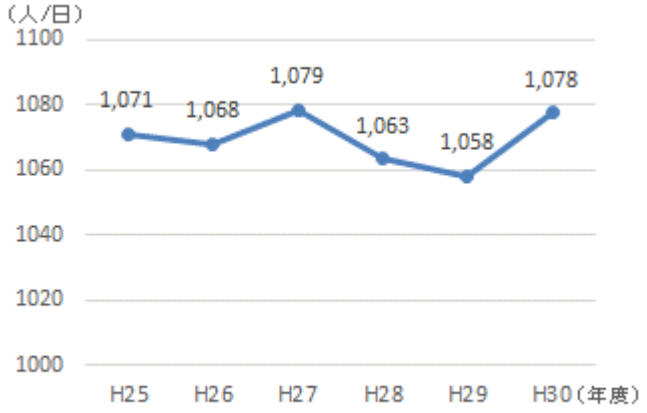
②バス

バス交通では、民間の4事業者による複数の営業路線があるものの、1日平均の乗客人員は横ばい傾向にあります。

市内循環バス「ぐるりん」は、平成22年度から運行を始めた都心循環線を中心に順調に利用者数を伸ばしています。

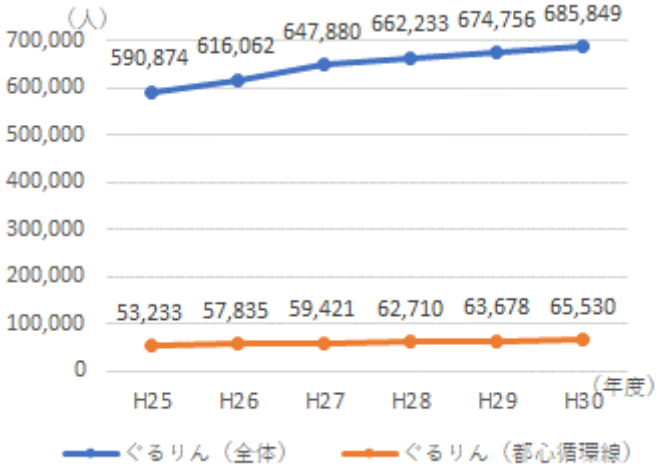
平成29年度から運行を始めた高崎アリーナシャトルも順調に利用が伸びており、平成30年度の利用者数は56,593人となっています。

■民間バスの1日平均乗客人員



（資料：高崎市の統計、高崎市統計季報）
※高崎駅発着（一部、他路線含む）の民間バス4事業者の1日平均乗客人員を集計

■市内循環バス乗客人員



（資料：高崎市地域交通課）

③巡回タクシー

令和元年 6 月から、高崎駅西口から大手前慈光通り、中央銀座アーケード街など、中心市街地を巡回する「お店ぐるりんタクシー」の運行事業が始まりました。原則毎日、無料で運行し、ルート内ではいつでも自由に乗り降りできるようになっています。

■お店ぐるりんタクシー巡回ルート

④駐車場

中心市街地には、市街地再開発事業などにより整備された駐車場をはじめ、民間の時間貸し駐車場が多く立地し、中心市街地のアクセスの向上と利便性を高めています。駐車場法第 12 条に定める駐車場と城址地下及び城址第 2 地下駐車場を合わせると、駐車台数は 12, 222 台になります。

■中心市街地の駐車場

№	駐車場名	所在地	境域面積（㎡）	駐車台数	形態
1	小林駐車場	下横町	1,320	104	立体自走
2	タイムズ高崎グリーンパーク	寄合町	2,800	46	平面
3	銀座パーク	中紺屋町	1,221	60	平面
4	丸屋高崎駅西口パーキング	旭町	2,214	247	立体自走
5	パーク 500	鞘町	2,532	479	立体自走
6	駅前駐車場	八島町	1,404	351	立体自走
7	高松地下駐車場	高松町	5,230	150	地下自走
8	プリンス駐車場	旭町	9,875	689	立体自走
9	髙島屋地下駐車場	旭町	7,220	142	地下自走
10	NTT 群馬パーキング	高松町	8,393	96	立体自走
11	廣田パーク	東町	1,357	326	立体自走
12	イーストパーク	東町	1,600	397	立体自走
13	パーク 108	柳川町	1,637	108	機械
14	JR 高崎駅ビル駐車場	八島町	1,906	93	立体自走
15	パーク 525	東町	2,160	502	立体自走

■中心市街地の駐車場（つづき）

№	駐車場名	所在地	境域面積（㎡）	駐車台数	形態
16	ウエストパーク 1000	旭町	5,942	1,000	立体自走
17	メディアメガ高崎ビル駐車場	下和田町	13,036	430	立体自走
18	西口サウスパーク	鶴見町	3,465	440	立体自走
19	ココパルク 800	東町	3,056	801	立体自走
20	あらまちパーク	あら町	1,318	168	立体自走
21	日新電機高崎旭町 HS 駐車場	旭町	7,254	183	立体自走
22	高崎駅東口自動車駐車場	八島町	6,100	488	立体自走
23	高崎シティパーク	連雀町	2,605	520	立体自走
24	日新電機高崎八島町駐車場	八島町	3,352	127	平面
25	高崎駅西口ペガサス駐車場	旭町	3,650	146	平面
26	LABI1 高崎駐車場	栄町	11,466	978	立体自走
27	NPC24H 高崎田町パーキング	田町	1,343	56	平面
28	タイムズドラッグスギ高崎栄町店	栄町	1,641	41	平面
29	城址地下駐車場	高松町	－	192	地下自走
30	城址第二地下駐車場	高松町	－	391	地下自走
31	高崎市総合保健センター及び高崎市立中央図書館駐車場	高松町	1,999	400	立体自走
32	平和パーク旭町	旭町	2,341	686	立体自走
33	高崎アリーナ駐車場	下和田町	5,643	200	地下自走
34	リパーク高崎高松町	高松町	744	62	平面
35	ココウエスト	通町	2,116	474	立体自走
36	高崎総合医療センター駐車場	高松町	23,352	649	立体自走 平面
合計			151,292	12,222	

［３］地域住民のニーズ等の把握・分析

（１）中心市街地活性化に関する市民意向

本市の中心市街地活性化について、市民がどのように感じているかは、隔年で市が実施している市民の声アンケートのほか、第２期基本計画の定期フォローアップにおける中心市街地活性化協議会の意見や市議会における議員の質問等から把握することができます。

①第 20 回市民の声アンケート（平成 30 年度）

このアンケート調査は、市民が日頃感じている行政運営に対する印象やまちづくりに関する意識を把握し、結果をこれからのまちづくりに生かしていくことを目的として実施しています。調査対象は、本市全域において、調査年度の 10 月 1 日現在住民登録されている満 18 歳以上 80 歳未満の市民で、無作為に抽出した 6,000 人に調査票を送り、約 5 割の方から回答があったものを集計し、結果を公表しているものです。

このアンケート結果の中で、現在の本市の印象について 34 の項目に対してどう思うかを回答する設問では、「まちなかの活性化が図られている」という項目について、「そう思う（どちらかと言えばそう思うを含む）」と答えた人の割合は 32.7％となっており、平成 28 年度に比べて 3.0％、4 年前の平成 26 年度と比べると 3.6％増加しています。

また、上記設問と同様の 34 項目について、特に市が力を入れて取り組むべきことはどれかとの設問では、「まちなかの活性化が図られている」を選択した人の割合は 15.4％で、平成 28 年度と比べて 8.0％、平成 26 年度と比べると 8.5％もの増加となっています。

これらの調査結果から、「まちなかの活性化」について、現状で感じている市民の割合も、今後の取り組みとして期待している市民の割合も年々増加する傾向にあり、中心市街地の活性化に対する市民の意識の高さが伺えます。

さらに、現時点で「将来のまちの姿」の実現に向けた取り組みが行われているか、5 つの分野について問う設問では、「人々がつどう魅力あるまち（産業・観光）」の分野について、「そう思う（どちらかと言えばそう思うを含む）」と答えた人の割合は 33.5％となっており、平成 28 年度に比べて 3.7％、平成 26 年度と比べると 6.2％増加しています。この結果から、大規模集客施設である高崎アリーナの整備や高崎オーパの誘致といった取り組みにより、高崎駅周辺に多くの人が集まるようになり、まちの魅力が増していると感じつつも、中心市街地のより一層の活性化が図られることを市民が期待していることが伺えます。

②その他の意見、要望等

上記アンケート調査のほか、市民の意向として、第 2 期基本計画の定期フォローアップ等における中心市街地活性化協議会の意見、市議会における議員からの質問・要望等からも、高崎駅周辺においては、市内外から多くの人が訪れるようになり賑わいと活気が生まれてきているものの、駅から離れた場所にある従来の中心商店街などは活性化が及んでいないと感じており、駅周辺の賑わいの効果を中心市街地全体へ波及させるような取り組みを官民一体となって行っていくことが期待されています。

■中心市街地活性化基本計画の定期フォローアップに関する報告（令和元年５月）

Ⅰ　中心市街地全体に係る評価

２．平成 30 年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

平成 30 年度は、昨年度に続き「歩行者・自転車通行量（休日）」が基準値を大きく上回る結果となったが、これは、毎年恒例の大規模イベントや様々な施策の継続実施の効果の他、平成 29 年 10 月に開業した高崎オーパの集客による波及効果や高崎駅西口周辺のペデストリアンデッキ整備により回遊性が向上したことが大きく影響していると推測される。

また、「小売業年間商品販売額」は高崎オーパ開業により周辺の大型店舗も売上げを伸ばすなど、相乗効果が生まれており、大幅な増加が見込まれる。この相乗効果を大型店だけではなく、中心市街地全体の個店にも波及させていくことが重要であると考える。

「文化施設の利用者数の合計値」は前年度から大きく減少したが、これは大規模な催事が少なく、市民団体の展示等の利用が多かったこと等が要因となっているとのことであり、市民の文化活動も含めた文化事業の実施と定着は着実に図られてきているものと評価できる。

現在、高崎駅周辺では大きく集客力が増加しており、この流れを今後もさらに加速し、効果を中心市街地全体に広げていくような展開を引続き期待するものである。

■市議会議員からの質問、意見等

・高崎駅西口の中心市街地の活性化を今後どのように進めていくのか。

・中心市街地全体を見渡すと、既存の商店街周辺は依然として閑散としているという印象が拭えない。人が歩き、にぎわいがあり、元気いっぱいのまちになるためには、商店街だけでなく、商店街に属さない商店主なども巻き込んで総合的な活性化策を講じる必要があると考えるが、市はどのように考えているか。

・通行量調査の結果から、高崎駅周辺の通行量が増加した一方で、駅から離れた商店街を中心に減少した地点も目立ち、駅周辺の賑わいの波及効果は限定的という見方もできるが、今後の回遊性向上のためにどのように取り組んでいくか。

・まちなかの回遊性向上として、高崎駅東口から西口への誘導策、さらには、西口から中心市街地全体への流れを作るために今後どのように取り組んでいくのか。

［４］これまでの中心市街地活性化に関する取組の検証

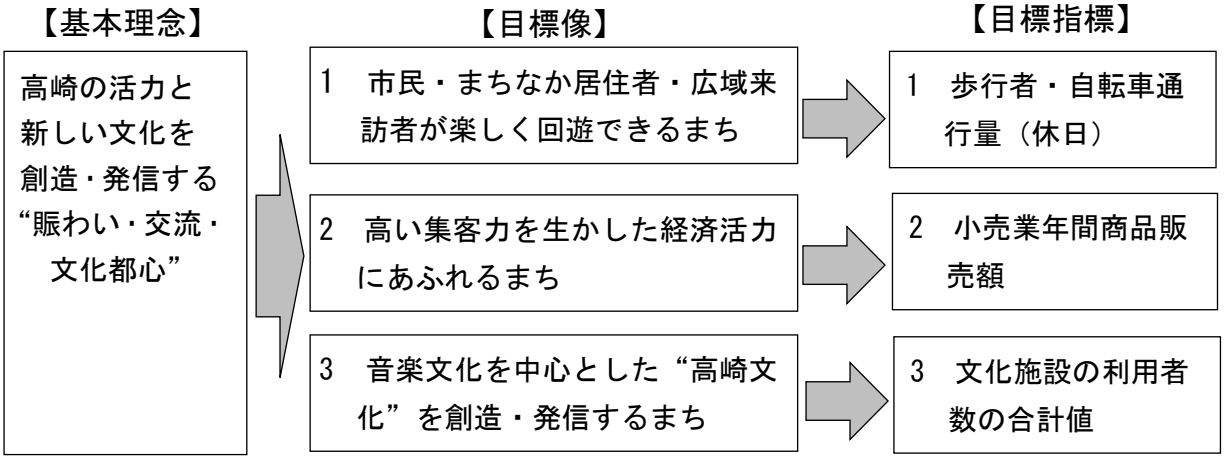
（１）第 2 期基本計画の概要

①計画期間　　平成 26 年 4 月から令和 2 年 3 月まで（6 年）
　　※延長期間：平成 31 年 4 月から令和 2 年 3 月（1 年）

②区域面積　　175ha

③基本理念、目標像及び目標指標

第 2 期基本計画では、以下の基本理念と 3 つの目標像、目標指標を設定しました。



（２）事業の進捗状況

第 2 期基本計画には 5 分類、66 事業を位置付けましたが、このうち当初計画期間（平成 30 年度末）内に完了した事業が 10 事業（15%）、延長期間（令和元年度末）までに完了予定の事業が 4 事業、合わせて 14 事業（21%）が完了する見込みであり、実施中が 50 事業（76%）、未実施が 2 事業（3%）となっています。なお、実施中の 50 事業のうち 44 事業（67%）は、特に期限を定めず継続的に取り組んでいる事業です。

事業分類別では、都市集客施設等の整備など、本市に新たな都市発展を牽引する「1 市街地の整備改善」に関するハード事業の中に、当初計画期間内に完了しない事業が見られ、今後も引き続き事業の実現に向けて取り組む必要があります。また、ソフト事業中心の「4　商業活性化の事業」に関しては、特に期限を定めていない実施中の事業が多く見られ、今後も引き続き事業の推進を図る必要があります。

■第 2 期基本計画掲載事業の進捗状況

	完了	R1 完了	実施中	左記のうち期限なし	未実施	合計
1　市街地の整備改善	6	3	5		1	15
2　都市福利施設の整備事業	2	1				3
3　居住環境の整備	1					1
4　商業活性化の事業	1		43	43	1	45
5　一体的推進事業			2	1		2
合計	10 (15%)	4 (6%)	50 (76%)	44 (67%)	2 (3%)	66 (100%)

（３）目標指標の達成状況

①目標指標１　歩行者・自転車通行量（休日）

歩行者・自転車通行量（休日）は、平成 28 年度調査で 126,549 人となって以降、計画策定時の当初目標（108,500 人）を達成し続けており、最新値（平成 30 年度調査）は 159,734 人で、目標値を大幅に上回る結果となっています。

これは、平成 25 年度からスタートした個店の魅力アップを推進する「高崎市まちなか商店リニューアル助成事業」、中心市街地の回遊性と賑わいの向上を図る「高崎まちなかオープンカフェ推進事業」、「高崎まちなかコミュニティサイクル推進事業」やその他イベントを中心としたソフト事業を継続して実施してきたことにより、中心市街地における回遊性の向上と魅力の拡大につながったものと推測されます。さらに、平成 29 年度に新体育館（高崎アリーナ）、高崎オーパといった大規模集客施設がオープンしたことも大きな要因と考えられます。

②目標指標２　小売業年間商品販売額

小売業年間商品販売額は、平成 30 年度推計額が 1,297 億円で、計画策定時の当初目標（1,375 億円）を達成できていない状況です。

これは、まちなか商店リニューアル助成事業による個店の魅力向上が客の誘引につながり、さらに、平成 29 年度にオープンした高崎アリーナや高崎オーパが高い集客効果を発揮し、高崎オーパ周辺店舗の来店客数、売り上げ増加にもつながるなどプラスの波及効果も生まれた一方で、数値目標の積算根拠として効果を見込んでいた高崎芸術劇場やＧメッセ群馬の整備といった主要事業の進捗が遅れたことが要因であると推測されます。

今後、これらの大規模集客施設の整備が完了し、コンサートなどの催事で多くの人が訪れ、催事の前後で買い物や食事をしてもらうことにより効果の発現が見込め、目標値に近づくと考えられます。

③目標指標３　文化施設の利用者数の合計値

文化施設の利用者数の合計値は、最新値（平成 30 年度）が 597,922 人で、計画策定時の当初目標（1,070,770 人）を下回っています。計画期間中の平均でも、620,291 人となることから、目標を達成することができない見込みとなっています。

これは、波及効果も含め年間 407,000 人の利用者を見込んでいた高崎芸術劇場の完成時期が当初計画から遅れたため、大幅な増加を見込んだ文化施設の利用者数の合計値が横ばい傾向に留まったためです。

高崎芸術劇場は、令和元年 9 月に開館したため、今後は当初見込んだ効果の発現が期待できます。

■目標指標の達成状況

目標指標	基準値	目標値	最新値
歩行者・自転車通行量（休日）	101,411 人 (H24)	108,500 人（R1）	159,734 人（H30）
小売業年間商品販売額	1,172 億円 (H23)	1,375 億円（R1）	1,297 億円（H30）
文化施設の利用者数の合計値	612,251 人 (H24)	1,070,770 人（R1）	597,922 人（H30）

［５］中心市街地活性化の課題

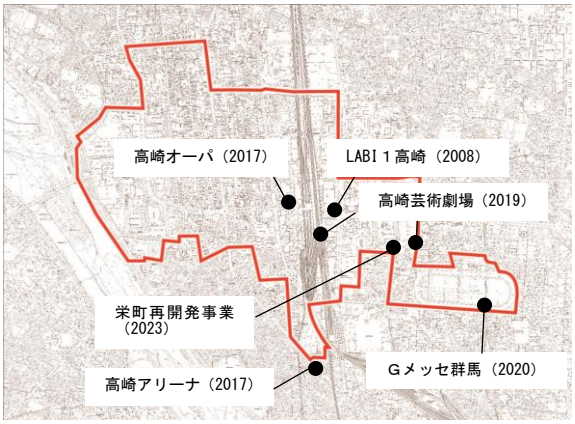
第３期基本計画に反映すべき第２期基本計画の課題として、以下の３点が挙げられます。

【課題１】 新たな都市発展を牽引する都市機能の整備 ≪都市機能≫

・令和元年９月に高崎駅東口に整備された高崎芸術劇場や令和２年４月に開館のＧメッセ群馬のほか、第２期基本計画期間中に整備予定だった高崎駅東口栄町地区市街地再開発ビル等の都市集客施設に、高崎市の新たな都市発展を牽引する装置としての役割が期待されることから、その早期完成が求められます。

・同時に、整備後の都市集客施設において、集客力のあるイベントを積極的に開催するなど、市内外から来訪者を誘引する継続的な取組みが重要になります。

■高崎駅周辺の都市集客施設（開業年）

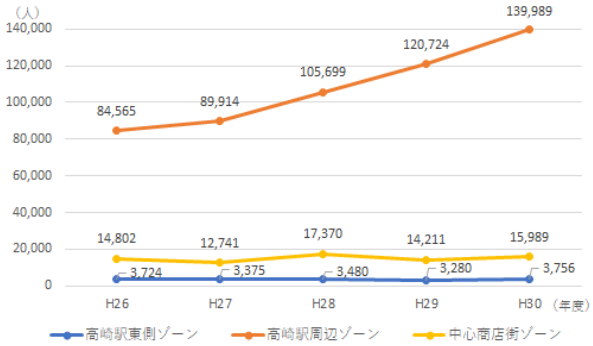


【課題２】 中心商店街への活性化効果の波及 ≪賑わい≫

・高崎駅周辺地区で賑わいの回復が見られる反面、中心商店街では、歩行者・自転車通行量が伸び悩んでおり、引き続き活性化に向けた取り組みを進める必要があります。

・このため、高崎駅東口周辺における高崎芸術劇場等の都市集客施設の整備により今後増加が見込まれる市内外からの来訪者が中心市街地を回遊するなど、高崎駅周辺地区の活性化の効果を中心商店街に波及させることが課題となっています。

■歩行者・自転車通行量

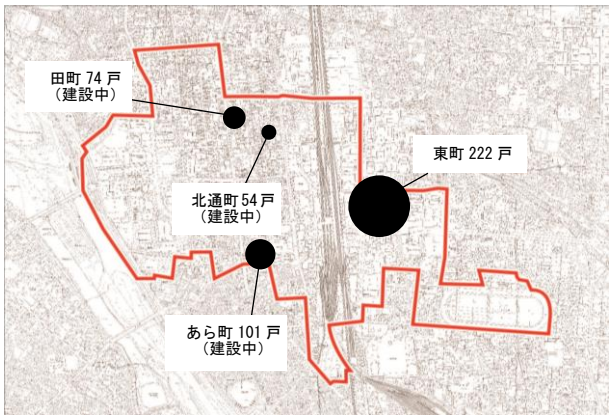


【課題３】 新旧住民の交流を重視した地域コミュニティの形成 ≪居住≫

・中心市街地の人口は近年頭打ちとなっており、また少子高齢化の進行が予測されることから、将来的に中心市街地の活力を下支えする住民の減少が危惧されます。

・このため、住宅供給を促進し、まちなか居住の推進を図るとともに、新旧住民間のコミュニティ形成（地域交流）を図る取り組みにより、暮らしやすい環境づくりも並行して進めることが重要になります。

■中心市街地周辺の高層共同住宅開発状況



［６］中心市街地活性化の方針（基本的方向性）

第３期基本計画では、高崎駅東口周辺に整備された高崎芸術劇場やＧメッセ群馬のほか、今後整備予定の高崎駅東口栄町地区再開発ビル等の都市集客施設のハード事業が先導し、その事業効果をソフト事業で中心市街地全体に波及させるという戦略方針の下、前述の課題に対応した以下の３つの基本方針に沿って、多様な施策を積極的に展開します。

■基本的な方針

課　題	基本方針	
【課題１】 新たな都市発展を牽引する都市機能の整備 ≪都市機能≫	【基本方針１】 都市集客施設の整備等による市内外からの来訪者の誘引	高崎駅東口周辺に整備した高崎芸術劇場等の都市集客施設における各種イベントの開催等により、市内外からの来訪者を積極的に誘引します。
【課題２】 中心商店街への活性化効果の波及 ≪賑わい≫	【基本方針２】 中心市街地における来訪者の回遊促進	増加が期待される市内外からの来訪者を、さらなる活性化が必要な中心商店街ゾーンを含めて、中心市街地全体に回遊させ、中心市街地にふさわしい賑わいを取り戻します。
【課題３】 新旧住民の交流を重視した地域コミュニティの形成 ≪居住≫	【基本方針３】 まちなか居住の誘導・促進	公共交通等の利便性が高く商業施設や公共施設等が充実している中心市街地の人口増加を促進し、新旧住民の交流を重視した地域コミュニティの形成を図ります。

■中心市街地活性化の戦略方針

【STEP1】交流人口・居住人口を増やす

【戦略方針１】交流人口を増やす

➢ 高崎駅周辺における都市集客施設等の整備を促進し、市内外からの来訪者（交流人口）を誘引する。

- ✧ 高崎アリーナ（2017 開館）
- ✧ 高崎芸術劇場（2019 開館）
- ✧ Ｇメッセ群馬（2020 開館）
- ✧ 高崎駅東口栄町地区市街地再開発事業（パブリックゾーン）など

【戦略方針２】居住人口を増やす

➢ まちなか居住の誘導・促進により、中心市街地の活力の“源”となる居住人口の増加と地域コミュニティの維持・増進を図る。

- ✧ 高崎市居住誘導策
- ✧ 高崎駅東口第九地区市街地再開発事業　など

【STEP2】行きたいまち・行きやすいまちをつくる

【戦略方針３】まちの魅力を高める

➢ まちなか空間の魅力増進やイベント開催等により、中心市街地の集客力を高める

- ✧ 高崎市まちなか商店リニューアル助成事業
- ✧ 高崎音楽祭、ｽﾄﾘｰﾄﾗｲﾌﾞ in 高崎どこもかしこも等の音楽イベント
- ✧ 高崎まちなかオープンカフェ推進事業　など

【戦略方針４】中心市街地の回遊性を高める

➢ 中心市街地の回遊性の向上を図り、中心市街地の活力と賑わいを区域全体に波及させる。

- ✧ お店ぐるりんタクシー運行事業
- ✧ 高崎まちなかコミュニティサイクル推進事業
- ✧ 市内循環バス「ぐるりん」都心循環線運行事業　など

【戦略目標】

高崎駅周辺で進めてきた都市集客施設の整備やイベント開催等により活力と賑わいを創出し、これを中心市街地全体に波及させる。